

(本校 14 期生)

2014 年 8 月 28 日 (木) 高知新聞 (朝刊)

富士通総研

白水枝里花さん(29)

東京都江東区在住

情報通信技術で漢方普及

遠境近況

ICT (情報通信技術) で漢方のフラックボックスを明らかにする研究メンバーに入っています。検査機器を使わず、問診や触診だけで診断するのが東洋医学。医師の持つ情報や経験が根拠となるため、検査結果など客観的データがある西洋医学と比べて、患者の信頼を得るのに時間がかかる。だから、診断の科学的根拠を集めて「見える化」したい。野球の長嶋茂雄さんが「左膝をピッと締めてピャッとバットを振る」と表現する打撃理論を、誰でも分かるようにする感じです。

対外的な仕事をしたくて ICT の会社に入りましたが、大学院では、薬剤師を目指して漢方を学んでいました。小学生の時、西洋医学の薬で治らなかったアトピー性皮膚炎が漢方薬で治った経験があったからです。西洋医学の薬が効き過ぎる高齢者や子どもには、漢方薬の方がいい場合もある。漢方をもっと普及させたいです。

高知へは年一回ぐらいしか帰れませんが、食べ物も素晴らしい。生薬の原料が豊富で、シヨウガやニンニクはよく使うし、春や秋の七草も日曜市ですぐに手に入る。高知の食はおいしい上に、体にもいいんですよ。



しらみず・えりか 高知市出身。土佐塾高卒。北里大学院を経て2009年に富士通総研。12年から漢方のICT化を研究。